

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
笑顔で 元気に 学ぶ子 進んで学ぶ子 思いやりのある子 元気な子 ふるさとを愛する子	○確かな学力と自ら考え自己表現する力を育てる。 ○一人一人の良さを認め合い、支え合い、高め合う集団作りを進める。 ○健康安全に関心を持ち、心身共にたくましく生きる力を育てる。 ○ふるさとと自然や人々を愛する心と態度を育てる。 ※礼儀(あいさつ・言葉遣い)を大切に発表情を伸ばしていく。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小6) ○国語A、算数Bについては、正答率は、県平均・全国平均並みであり、無回答率は低い。 ○算数A、国語Bについては、正答率は、県平均・全国平均をかなり上回っており、無回答率は0である。 ○国語Aの「書くこと」の領域についてやや課題があるが、算数A、国語Bについては概ねどの領域もよくできていた。 県(小3から小5) ○小3、小5の国語については、正答率が県平均を上回ったが、小5の算数については県平均をやや下回った。 ○小4については、国語、算数とも正答率が県平均を下回った。 ○国語では、小3については説明文の内容の読み取り、小4、小5については、ことばの学習に課題がある。 ○算数では、小3については、「はこの形」、小4については「口を使った式」に課題がある。	【学習状況調査の結果】 ・平日のテレビ等の視聴時間が2時間以上と答えた児童の割合は、県平均に比べやや高い。 ・授業時間以外の学習時間が2時間から4時間までと答えた児童の割合は、県平均に比べ高い。 ・平日の読書時間は県平均並みである。 ・地域の行事やボランティア活動に参加したことのある児童の割合は、県・全国平均に比べかなり高い。

成果	課題
○算数の授業で、ペア学習やグループ学習を進め、自分たちの考えをホワイトボードにまとめる活動を繰り返し行うことで、自分の考えを持ち、表現する力がついてきた。 ○学習に落ち着いて取り組み、何とか自分で答えを導き出そうとする児童が増え、ほぼ無解答がない。 ○毎週木曜日の朝学習で、「問題データベース」等を活用し、課題のあった全校問題に取り組むことで、算数の基礎的な力がついている。(算数Aの「量と測定」以外の3領域で88%程度となっている。)	○算数の活用型の問題を苦手としている。 ○「量と測定」「図形」の領域を苦手としている児童が多い。 ○提示された条件や字数制限のある文章で答えたり、目的や意図に応じ、引用して書いたりすることが苦手である。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
提示された条件や、字数制限のもとで文章で表現することがやや苦手である。	年度末まで	「書くこと」の領域の問題が、県平均並みに解けるようになる。	国語・社会を中心に、キーワードや字数を示してまとめるを書かせたり、生活科で視点を示して、ワークシートにまとめさせたりして文章力をつける。	書く活動をかなり取り入れたが、学年によっては、字数を意識してまとめたり、要約したりする力が、十分とは言えない学年もある。	C	書く活動やB問題集に取り組むことで、大分力が付いてきている。しかしながら、文章で書くことが難しい児童もいる。高学年では、字数を意識してまとめることが、かなりでき出し	B	低学年では、視写や、担任と一緒にまとめるなど書かせる活動を大切に、書く力の向上を目指す。また、高学年では、まとめや要約の際のふさわしい言葉の選び方やキーワードの探し方について学習させ、社会や理科など、国語以外でも取り組む。
「量と測定」「図形」の領域が苦手である。	年度末まで	「量と測定」「図形」の領域の問題が県平均並みに解けるようになる。	「WEB評価支援システム」の個別教材(プリント)を使ったり、過去問題を解かせたりすることで、苦手な課題の解消を目指す。	「WEB支援システム」等のプリントを活用し、苦手克服を目指した。成果が出るよう引き続き、反復練習をさせた。	B	復習プリントや過去問題等で反復練習をおこなうことで、基本がだいたいできた。	B	低学年では、ものさしを使って、直線を正確に引くことができるようにする。また、図形の性質と名称が覚えられるよう暗唱をさせる。また、高学年では、定期的な練習問題に取り組ませ、苦手領域の克服を目指す。
高学年での自主学習の取り組み方に個人差がある。	年度末まで	高学年児童の8割が、毎日自主学習ノートに取り組めるようになる。	よい取り組みができている児童のノートをコピーし、各教室に掲示して参考にさせる。また、よく取り組んでいる児童のノートには、励みとなるシールを貼るなど、点検や評価を確実に行い、意欲を育てる。	学年によってばらつきがあるが、6年生では、9割以上の児童が取り組むことができている。校長のシールや副校長のコメントが意欲につながっている。	C	学年に応じた工夫(取り組みませ方、ごほうびシールやコメント、自学カレンダー等)により、高学年以外の学年からも9割以上の児童が取り組めてきた。	A	引き続き、学年に応じた工夫(取り組みませ方、ごほうびシールやコメント、自学カレンダー等)によりさらに自主的な取り組みを目指す。取り組めていない児童に対しては、スモールステップで少しずつでも取り組んでいけるよう、さらに支援を工夫していく。

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開、並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○読書活動、自学ノート、中学校の試験期間に合わせたメディアコントロールの取り組みの推進、毎時間の授業のまとめを自分の言葉でまとめさせたり、文章の要旨をまとめさせたりすることに各校とも取り組んでいく。	○「家庭学習のてびき」をもとに、学級懇談や個人懇談などで呼びかけると共に教員・児童両面からの意識調査をおこなう。 ○メディアコントロールの取り組みを、家庭に呼びかけ行う。